

3) 安全施設の補修

水路内への侵入や転落を防止するフェンスなど安全施設の破損箇所や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

【活動のねらい】

分水工や堰、水路沿いなどに設置されている金網フェンスなどの安全施設において、破損や老朽化がみられた場合、当該箇所を補修することによって、施設周辺の安全確保を図ります。



破損した金網フェンス

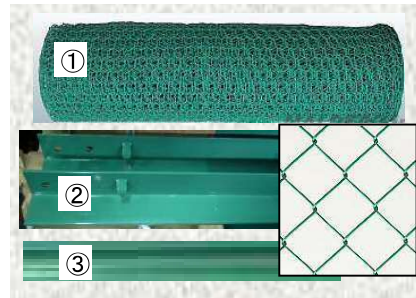
【活動の内容】

3-1) 計画（金網フェンスの場合）

金網フェンスにおいて、金網の破れ、胴縁や支柱の曲がりなどの破損や腐食などの状況を目視にて点検します。また、フェンス全体に少し力を加えるなどしたときに、ぐらつきがないか点検しておく必要があります。これらの点検結果に応じた対策方法を検討しますが、施設管理者や関係機関等と十分に相談することが大切です。

3-2) 実施

破損や老朽化の状態に応じた補修を実施します。例えば、金網の一部が破れている場合は、その部分だけ新しい金網を当てて繋げる方法が考えられます。胴縁や支柱が曲がっている場合は石頭ハンマー等で叩いて曲がりを修正することも考えられます。また、部材の腐食が激しかったり、金網が比較的大きく破れていたたり、胴縁や支柱の曲がり等の変形が激しいときは新しい部材に交換することを考えます。その際は、新しいフェンスは、できるだけ既設のフェンスと同等のものを使用することに留意します。



金網フェンスの材料
(①金網、②胴縁、③支柱)

また、フェンスにぐらつきがある場合は、胴縁や支柱、金網といった各部材がしっかりと接続されているか確認し、必要に応じてナットを締め直すなどします。また、支柱の基礎となるコンクリートと周辺の地盤に隙間がある場合は、周辺の土を突き棒などで締め固め、基礎コンクリートが動かないようにします。

3-3) 確認

補修箇所に異常がないかを目視にて確認するとともに、フェンス全体に少し力を加える

などしてフェンス自体がしっかりと固定されているか等を確認します。また、必要に応じて、各部材の接合部のボルト・ナットを締め直します。

【配慮事項】

- ・作業に当たって道路を占有するときには、事前に関係機関（所轄警察署等）へ相談し、必要な手続きなどを行います。

【安全施設の補修】

～活動例～

○フェンスの補修

・対象施設

水路沿いのネットフェンス（H=1.0m、L=132m）

・活動内容

水路への転落を防止するためのネットフェンスが全面的に傾いていたため、基礎部分を掘り起こし支柱が垂直となるように補修した。

・活動時期

3月

・作業者

専門業者へ委託